



令和3年3月30日

令和3年度北海道開発事業費

(札幌開発建設部実施分) の概要について

令和3年度北海道開発事業費（札幌開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

参考として、北海道開発局（本局）の公表に倣い、令和2年度第3次補正予算を含む予算総括表もあわせて添付しています。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

全 体 広 報 官 木全 裕示（電話番号 011-611-0279 ダイヤルイン）
河川関係 河川計画課長 岩井 真央（電話番号 011-611-0329 ダイヤルイン）
道路関係 道路計画課長 笠松 周悟（電話番号 011-611-0239 ダイヤルイン）
空港関係 空港対策官 伊東 敦史（電話番号 011-611-0273 ダイヤルイン）
公園関係 道路防災推進官 神 康英（電話番号 011-611-0246 ダイヤルイン）
農業関係 農業整備課長 今野 浩二（電話番号 011-611-0247 ダイヤルイン）



令和3年度
北海道開発事業費
(札幌開発建設部実施分)の概要について

令和3年3月
札幌開発建設部

目 次

I 札幌開発建設部事業費総括表	1
II 札幌開発建設部関係事業概要（事業別）		
1 治水関係事業	3
2 道路事業	12
3 空港整備事業	20
4 国営公園事業	21
5 農業農村整備事業	22

令和3年度 札幌開発建設部事業費総括表

(事業費)	(単位：百万円)	
事 項	予 算 額	備 考
治 水	42, 239	
道 路	37, 213	
空 港 整 備	5, 281	
都 市 水 環 境 整 備	224	
国 営 公 園	1, 082	
農 業 農 村 整 備	17, 770	
合 計	103, 810	

- 注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

札幌開発建設部事業費総括表（令和2年度第3次補正予算・令和3年度当初予算）

(事業費)

(単位：百万円)

事　　項	合　　計	令　和　2　年　度	令　和　3　年　度	備　考
		第3次補正予算額 (令和3年1月29日公表)		
治　　水	61,148	18,909	42,239	
道　　路	45,477	8,264	37,213	
空　　港　　整　　備	5,281	0	5,281	
都　市　水　環　境　整　備	224	0	224	
国　　営　　公　　園	1,984	902	1,082	
農　業　農　村　整　備	23,240	5,470	17,770	
合　　計	137,354	33,545	103,810	

注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和3年度の主な河川事業（石狩川下流）

近年頻発する水害・土砂災害を踏まえ、北海道総合開発計画に基づき、強靭な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成に資するためのインフラ整備や老朽化対策の推進を図るとともに、農林水産業や観光等を担う「生産空間」の保持・形成に資する治水事業を実施します。

また、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動やサイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進します。

川へ行こう！ 川を楽しもう！



凡例

- 堤防
- (H) 防災ステーション
- (O) 環境整備事業
- (■) 遊水地(整備中)
- (■) 遊水地(完成)
- (▲) ダム(完成)
- (△) ダム(建設中)
- (□) ダム(計画中)
- 直轄管理区間

— 石狩川 北村遊水地整備 —

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地です。

昭和56年8月洪水時には、11箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するために北村遊水地等の整備を推進します。

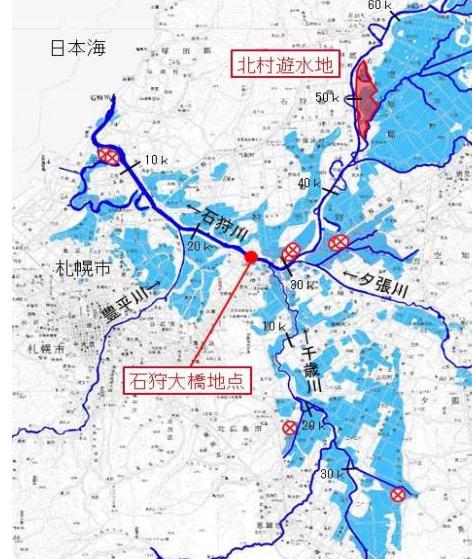
《北村遊水地》

- 事業箇所 : 岩見沢市、月形町、新篠津村
- 事業期間 : 平成24年度～令和8年度
- 遊水地面積 : 950ha (遊水地単独の面積では、全国で3番目の大きさ)
- 洪水調節容量 : 4,200万m³
- 主な整備内容 : 周囲堤、囲ぎょう堤、越流堤、排水門、用地・補償など
- 令和3年度実施内容 : 囲ぎょう堤、周囲堤、樋門、補償

■昭和56年8月上旬洪水 石狩川流域浸水実績図

<SS56.8上旬洪水被害概要>
・氾濫面積約614km²、被害家屋約22,500戸、死者2名

凡例
■ 氾濫区域
× 破堤箇所



昭和56年洪水からこれまでの対応

- ・石狩川では、昭和56年洪水を対象とした築堤・掘削等の河川改修を推進
- ・千歳川流域においては、支川及び石狩川本川の洪水調節に効果を發揮する千歳川遊水地群等の整備を推進(遊水地群は令和2年度供用開始)

北村遊水地より上流部の河川改修を更に推進するには、河川改修による流量増をカバーする洪水調節施設が必要

北村遊水地の整備



平常時



平常時は農地として利用

洪水時



洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。

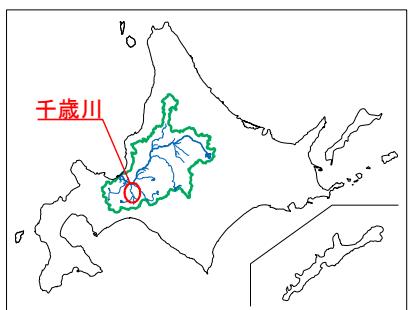
■北村遊水地等の整備によって、昭和56年洪水対応が完了し、石狩川下流域の浸水被害を解消。

— 千歳川流域の治水対策 —

千歳川の中下流部は広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を長い区間に亘り長時間受けるなど水害が起きやすい特性を有しています。

特に、昭和56年8月上旬洪水は未曾有の大洪水となり、氾濫面積192km²、被害家屋2,683戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するため、千歳川河川整備計画に基づき治水対策を推進します。整備を進めてきた千歳川遊水地群全てを令和2年度から供用開始するとともに、石狩川の高い水位の影響を長時間受けることに対応した堤防の整備や河道掘削等を推進します。

○令和3年度実施内容 堤防整備、河道掘削



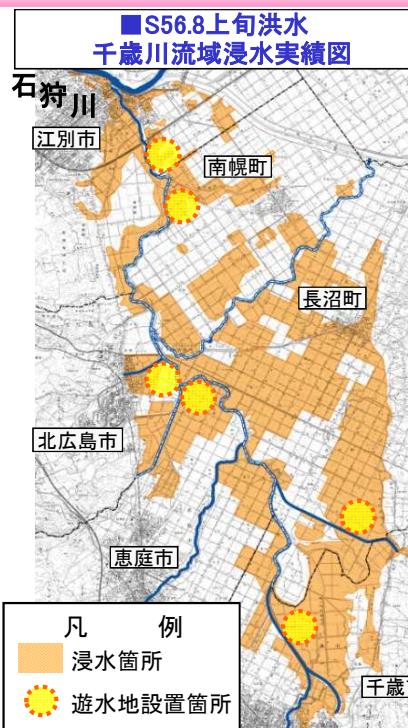
千歳川の中下流部には広大な低平地が広がっているため、洪水時に石狩川本川の高い水位の影響を、長い区間にわたり長時間受けることから、

- ◆破堤等の危険性が高い。
- ◆雨水の排水が十分にできない。

などの課題を有する。

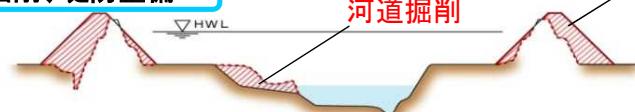
S56年8月上旬洪水（長沼町浸水状況）

千歳川流域の治水対策



治水対策の実施

河道掘削、堤防整備



川の断面を拡幅し、洪水時の水位を下げる。

堤防の断面を大きくし、洪水時に長時間続く高い水位に対応する。

遊水地群の整備

*令和2年度より全ての遊水地で供用開始



洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。



内水対策・流域対策の促進

開発に伴う調整池の設置などの流出抑制対策、内水対策、洪水被害軽減策等を関係機関が連携して推進する。

■ 昭和56年8月上旬洪水により想定される浸水被害を大幅に解消

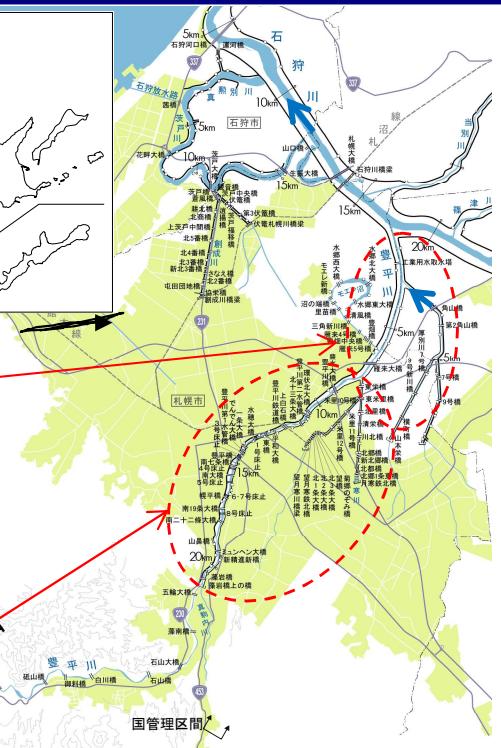
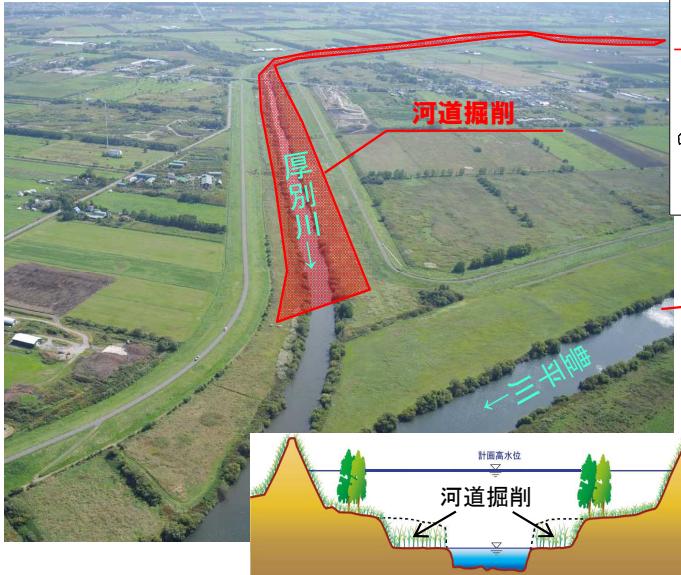
－札幌市の甚大な被害を防止・軽減するための治水対策(豊平川)－

札幌市は北海道の社会、経済の中枢となっており、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。

こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。そのため流下断面を確保するため、河道掘削や河道内樹木の管理などのハード対策を実施するとともに、札幌市等と連携しつつ各種訓練や情報共有化等のソフト対策が一体となった治水対策を推進します。

○令和3年度実施内容 河道掘削、河道内樹木の管理等

河道掘削による流下能力の確保



河道内樹木の管理(除去による流下能力の確保)



各種訓練や情報共有化等のソフト対策



石狩川下流域外減災対策協議会 豊平川外地域部会実施状況
(参加機関 札幌市、石狩市、当別町等 8機関)



水防工法訓練状況



ホットライン伝達訓練

平成30年度石狩川水系豊平川総合水防演習実施状況

一幾春別川総合開発事業－

幾春別川下流部は豊かな農地として利用され、上流部には深い山々に囲まれた桂沢湖があり、川が刻んだ周囲の渓谷からは、貴重な化石が出土しています。また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置するなど交通の要衝となっており、洪水災害から地域社会を守るために、幾春別川総合開発事業を推進します。

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した北海道の直轄多目的ダムである桂沢ダムを約12m嵩上げする再開発ダムであり、三笠ぼんべつダムは幾春別川の支流である奔別川で新たに建設される治水専用ダムです。

○令和3年度実施内容：本体工事、付替道路工事等

○目的

- ・洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（桂沢水道企業団（岩見沢市、三笠市、美唄市） $0.1\text{m}^3/\text{s}$ ）
- ・工業用水の供給（北海道企業局 $0.149\text{m}^3/\text{s}$ ）
- ・発電（電源開発（株）最大16,800KW）



—雨竜川ダム再生事業—

雨竜川流域は深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の1市6町からなり、そばや水田などの農業が流域の基幹産業となっています。また、流域には、国道233号、国道275号などの基幹交通施設が位置しています。洪水災害から地域社会を守るため、既設ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保する雨竜川ダム再生事業の実施計画調査を継続します。

○令和3年度実施内容：地質調査等

○目的

- ・既設：発電（北海道電力（株）最大51,000kw）
- ・再生：洪水調節（雨竜川、石狩川の洪水被害防御）



かさ上げイメージ図(雨竜第二ダム)

— 石狩川水系豊平川直轄砂防事業 —

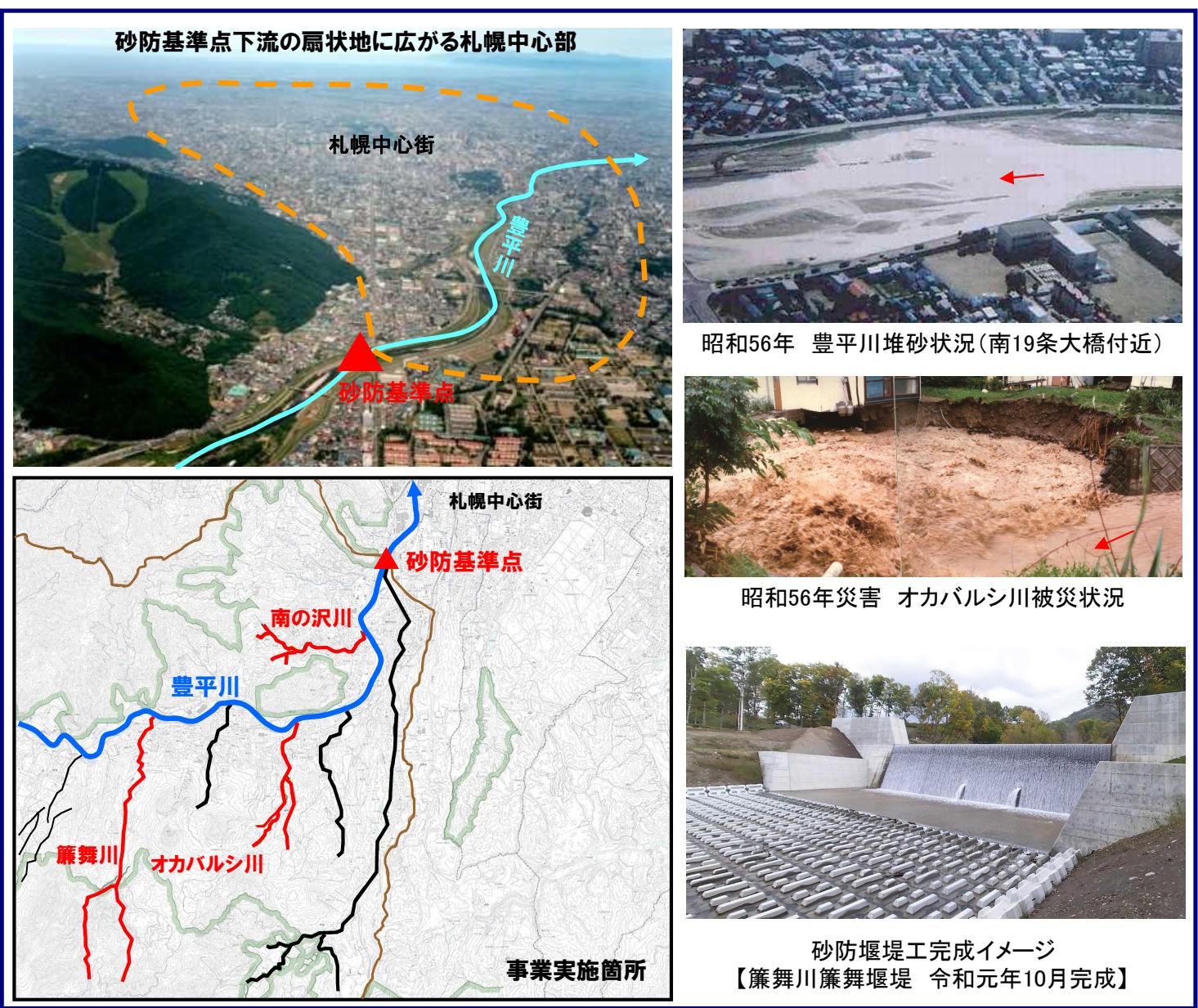
札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要交通網や要配慮者利用施設などが集積しています。ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。

また、札幌市街地は豊平川の扇状地上に形成されており、昭和56年洪水では、豊平川本川河道に流出した堆積土砂による河床上昇のため、堤防付近を高速流が流れる大変危険な状態になりました。幸い、豊平川本川では堤防決壊には至りませんでしたが、上流域の河岸段丘や支川沿いの市街地では、土石流や溪岸浸食により死者1名を含む甚大な土砂災害が発生しました。これらを契機に、翌昭和57年より直轄砂防事業による砂防設備の整備を進めています。

○事業効果

砂防堰堤や床固め工等の砂防設備の整備により、下流への土砂流出や堆積土砂の再移動を抑止し、豊平川本川の氾濫被害を軽減するとともに、市街地や重要交通網、要配慮者利用施設などの資産を土石流等の土砂災害から守ります。

○令和3年度実施内容 砂防堰堤工等



一 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(自然再生) 一

かつて石狩川下流域の各地で広範囲に分布していた高層湿原は、流域の発展に伴って大きく減少しました。その高層湿原の一つである幌向原野の名残が、夕張川幌向地区の高水敷の一部に残存していますが、基盤となる高位泥炭の乾燥による分解が進行している状況です。

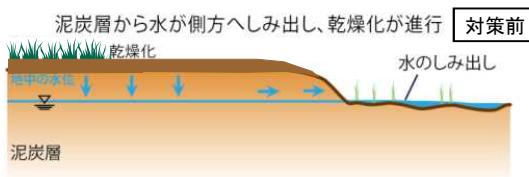
かつての幌向原野のような高層湿原を再生し、地域活性化に資するため、夕張川の高水敷に分布する高位泥炭を活用し、多様な湿生植物の生育環境の保全・再生を図ります。

○令和3年度実施内容 モニタリング 等

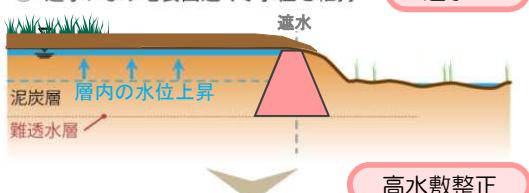


湿原再生のための整備

泥炭層の乾燥化を防ぐため、泥炭層からの水のしみ出しを抑制し、地中の水位を安定させて湿生植物が生育できるように整備。



①: 遮水により地表面近くで水位を維持



②: 乾燥した地表面の泥炭をすき取り、湿潤面を露出



③: 湿潤面に湿生植物を移植



整備後のイメージ

ほろむい七草



一 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(かわまちづくり) 一

河川空間を活用した地域活性化のため、砂川遊水地及び漁川（道と川の駅 花ロードえにわ隣接地）において、地元自治体と連携して「かわまちづくり」を推進します。

砂川地区：砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用し、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行います。また、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

恵庭地区：管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ります。

また、かわまちづくりで整備された花の拠点周辺を会場として、令和4年6月から全国都市緑化北海道フェアが開催される予定となっています。

- 令和3年度実施内容【砂川地区かわまちづくり】 管理用通路、施設設計 等
- 【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、管理用通路 等

砂川地区かわまちづくり

—砂川スイーツが結ぶ まち・人・水辺—

親水護岸や管理用通路等の整備と、
都市・地域再生等利用区域指定による水辺の賑わいづくり

■:国交省
■:砂川市・協議会



恵庭かわまちづくり

—花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境—

恵庭市による花の拠点整備と連携し、
良好な水辺空間を創造

花の拠点

「道と川の駅」の後背地に、カフェ等を備えた「花の観光拠点」を整備



新住宅団地

省エネ・創エネに配慮した工法住宅の整備

散策路や植栽



地区計画や建築協定による景観や環境に配慮した住宅

(イメージ)

住民の憩いの場となる広場



かわゾーン

管理用通路の整備による漁川への連続性改善や、親水施設の整備



令和3年度 道路事業

1. 食料供給基地としての持続的発展及び世界水準の観光地の形成を目指す地域社会の形成

(1) 広域分散型の地域構造を支える道路ネットワークの形成

高規格道路と一体となって、道央都市圏と他圏域（地方部の生産空間、地方部の市街地及び圏域中心都市）とのアクセス強化を図り、「人流・物流の拡大」や「地域・拠点間（空港、港湾等）の連携」を推進するため、「道央圏連絡道路」整備による道路ネットワークの構築を推進します。

また、高次都市機能が集積する札幌都心部と他圏域とを結ぶ幹線道路の交通円滑化を図るため、「国道12号 峰延道路」、「国道230号 定山渓拡幅」、「国道275号 江別北道路」などの4車線拡幅事業を推進します。



泉郷道路（道央圏連絡道路）
(令和2年3月7日開通)



国道275号江別北道路
(新石狩大橋新設で新たな2車線を整備)

(2) 「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

観光の加速化や防災拠点機能の強化、子育て応援施設や大学との連携など、あらゆる世代が活躍する地域の拠点機能を強化し、官民の力を合わせて更なる地方創生を推進します。



授乳室
(花ロードえにわ)



官民連携による子育て応援自動販売機の整備
(スター・プラザ芦別)

2. 世界水準の観光地の形成

(1) ドライブ観光の推進

コロナ禍における、道内や国内の観光需要の早期回復に向け、国内に類を見ない雄大な自然等を生かしたドライブ観光を推進し、地方部への周遊を促進するため、安全で快適なドライブを支える道路整備や道の駅整備に加え、観光地案内や道路情報提供の充実、公共交通との連携強化等に取り組みます。



道の駅における観光案内



道路標識での観光地案内

(2) 「シニックバイウェイ北海道」の推進

地域資源を最大限に活用した美しい景観づくり・活力ある地域づくり・魅力ある観光空間づくりを目指し、「支笏洞爺ニセコルート」「札幌シニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」「空知シニックバイウェイ-体感未来道-」（候補ルート）の活動団体と協働した取組を推進します。

また、「世界水準」の観光地形成に向け、地域の活動団体がお薦めする魅力ある景観を有する道路を選定し、景観の維持・形成や誘客に向けた広報等を重点的に実施する、シニックバイウェイ「秀逸な道」を令和3年度から本格的に展開します。



国道453号千歳市幌美内



国道230号札幌市南区定山渓

(3) サイクルツーリズムの推進

札幌開発建設部では、サイクルツーリズムを推進するため、石狩・空知・上川地域の全長約430kmに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・宗谷地域の全長約290kmに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、案内看板や路面表示の設置等の安全で快適な自転車走行環境を創出、道の駅へのサイクルラック設置等の受入環境の整備・改善に取り組んでいます。引き続き、自転車利用環境の充実を図るとともに、多様な関係機関との連携のもと、世界水準のサイクリング環境の構築に向けた取組を推進します。



道の駅におけるサイクルラック設置
(写真左 「北欧の風 道の駅 とうべつ」
写真右 石狩「いろいろど厚田」)



石狩北部・増毛サイクルルート
(望来ビュー)

3. 強靭で持続可能な国土の形成

(1) 道路の防災・減災対策

災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築・機能強化し、多重性や代替性を向上するため、高規格道路や並行する一般国道等の整備、橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策、法面・盛土の土砂災害防止対策を推進します。



橋梁の流失防止対策（橋台の護岸整備）



道路斜面対策（被災状況と土砂防護柵設置後）

(2) 冬期災害に備えた対策の推進と災害発生時における地域支援

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格幹線道路等の整備、一般国道等の現道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、災害発生時における被災地の支援のため、T E C – F O R C E（緊急災害対策派遣隊：リエゾン^{注)}を含む）等により、被害拡大の防止、被災自治体管理施設の被災状況の調査、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）



立ち往生車両の車両移動訓練



T E C – F O R C Eによる被災状況の調査
(令和2年7月 熊本県芦北町)

(3) 道路施設の老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



橋梁補修（斜材保護カバー補修）



ドローンによる橋梁点検状況
(国道452号 芦別市)

(4) 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、無電柱化推進計画に基づき、各道路管理者・関係事業者と連携して無電柱化を推進します。



【整備前】(国道12号札幌市中央区北一条)



【整備後】(国道12号札幌市中央区北一条)

(5) 交通安全対策の推進

事故データ、地域の声やビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン※を推進するとともに、高規格幹線道路の暫定2車線区間については、正面衝突事故対策としてワイヤロープの設置を計画的に推進します。また、未就学児を含む子供の移動経路における交通安全の確保に向けた取組について関係機関と連携し推進します。

※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組



【事故対策前】国道5号手稲駅前通交差点



【事故対策後】国道5号手稲駅前通交差点

(右折車線の設置、滑り止め舗装、減速路面標示等を実施)

●令和3年度 主な道路事業の概要

◎は令和3年度新規事業化

国道名	事務所	主要事業
5号	札幌道路事務所	◎創成川通、 ◎西宮の沢中央通交差点改良、新川交差点改良
12号	札幌道路事務所	野幌松並町交差点改良、菊水電線共同溝、 白石中央電線共同溝、白石本通電線共同溝、 白石本通第二電線共同溝、厚別中央電線共同溝、 江別野幌町電線共同溝、江別野幌町第二電線共同溝
	岩見沢道路事務所	峰延道路、 道道奈井江浦臼線交差点改良、◎奈井江9号線交差点改良、 砂川電線共同溝
	滝川道路事務所	空知太東1条交差点改良、北滝の川事故対策
	深川道路事務所	内園交差点改良
36号	千歳道路事務所	千歳錦町事故対策
38号	滝川道路事務所	市道東2号交差点改良（滝川市）
230号	札幌道路事務所	定山渓拡幅、 石山交差点改良、豊平峡交差点改良
233号	岩見沢道路事務所	深川電線共同溝
	深川道路事務所	深川本町通交差点改良
234号	岩見沢道路事務所	道道恵庭栗山線交差点改良
274号	札幌道路事務所	◎北13条北郷通交差点改良、西の里交差点改良 ◎東三川交差点改良
275号	札幌道路事務所	江別北道路、 ◎丘珠空港通交差点改良
	深川道路事務所	◎和交差点改良
337号	札幌道路事務所	道央圏連絡道路「中樹林道路」、「長沼南幌道路」
	千歳道路事務所	◎南幌路肩改良
452号	岩見沢道路事務所	盤の沢道路、桂沢ダム関連、 清水沢交差点改良
453号	札幌道路事務所	◎福住桑園通交差点改良
	千歳道路事務所	幌美内事故対策

令和3年度（新規）

一般国道5号 創成川通

そうせいがわどおり

（直轄）

1. 概要

一般国道5号創成川通は、札幌都心部と北海道横断自動車道を結ぶ路線の交通混雑、交通事故の低減を図り、道路交通の定時性、物流の速達性、安全性の向上等を目的とした延長4.8kmの事業。

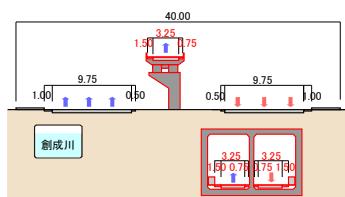
2. 計画内容

箇所名：北海道札幌市東区北37条東1丁目～北海道札幌市中央区大通東1丁目
延長：L=4.8km

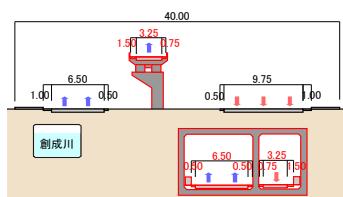


標準横断図（単位:m）

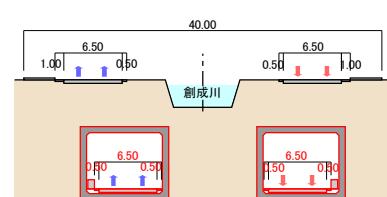
2方向2車線区間



2方向3車線区間



2方向4車線区間



令和3年度の道路調査の見通しについて（交通拠点）

交通拠点の事業化に向けて、事業計画の検討等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

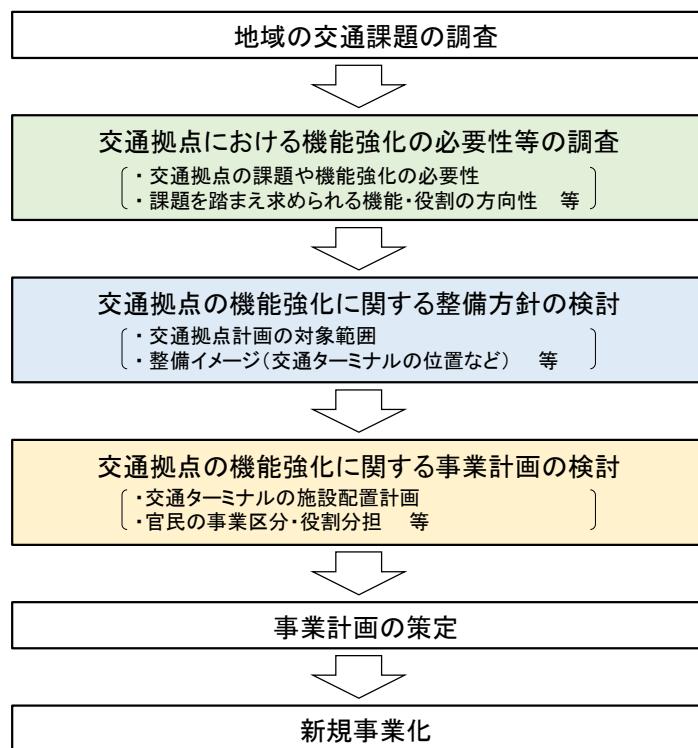
【主な調査箇所】

交通拠点の機能強化に関する事業計画の検討

北海道札幌市 札幌駅周辺

また、地域における道路交通に関する課題を把握するためのデータ収集・分析等を行うとともに、道路ネットワークにおける拠点の機能強化の必要性、緊急性、妥当性に関する基礎的な調査を実施します。

<交通拠点の調査の流れ>

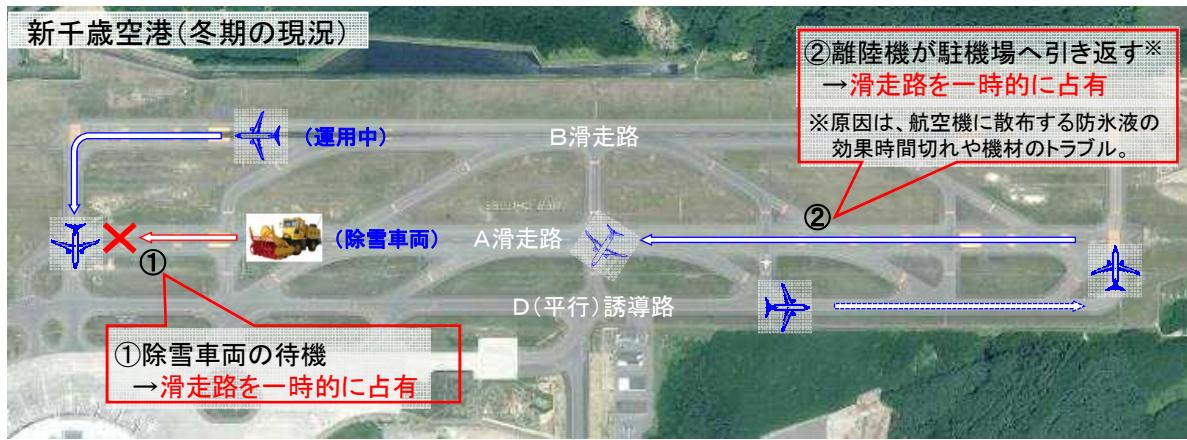


空港整備事業

1. 世界水準の観光地の形成

○国内外の旅行者の受入環境整備(空港の機能強化:誘導路複線化等)

新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時的な占有に起因する遅延や欠航が課題となっていることから、誘導路の複線化事業等を推進し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備に取り組みます。



誘導路を複線化(新設)



2. 強靭で持続可能な国土の形成

～激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成～

○地震の発生に備えた対策の推進(滑走路の液状化対策、河川函渠等の耐震補強)

新千歳空港では、大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、空港施設の耐震対策を推進します。



耐震補強による地下構造物の崩壊防止

液状化対策による滑走路等の不陸防止

令和3年度 国営公園事業（滝野すずらん丘陵公園）

◇広域レクリエーションの拠点となる大規模公園の運営維持管理

滝野すずらん丘陵公園は、四季折々、北海道ならではの豊かな自然を満喫できるよう、自然体験型観光や冬期も利用可能な広域レクリエーションなどのニーズに対応した公園を目指しています。

当公園は、平成22年度に約400ha全面を開園しており、安心して、たくさんの利用者がご来園いただけるよう、コロナ禍に対応したイベントの開催、公園施設の修繕・更新、ヒグマの侵入防止対策等、適切な運営維持管理を行います。また、Wi-Fiスポットの提供、QRコード(15カ国語対応)による公園情報の提供、翻訳機等による公園案内、イングリッシュガイドツアー(スノーシュ)の開催等を継続するとともに、SNSを活用した動画による情報発信の充実、ピクトグラムや多言語の案内標識の増設・大型化に加え、新たにWEB地図サービスを活用した園内施設の情報の提供等、外国人観光客が快適・円滑に公園を楽しむための受入環境整備を推進します。



チューリップ・すずらんフェスタ



滝野スノーワールド(ファミリーゲレンデ)

清野すずらん丘陵公園



ソーシャルディスタンスを確保した
大型イベント（ドライブイン花火）

国営かんがい排水事業

ほ つ か い

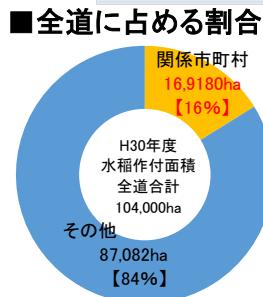
北海地区



1 | 地域の概要

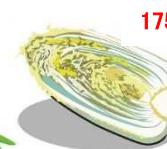
■水耕作付面積の全道ベスト5（H30年度）

- ▶ 石狩川中流域に拓けた稻作を中心とした農業地帯
 - ▶ 水稲作付面積が全道1位と6位を受益とする「米どころ」
(岩見沢市で「米-1グランプリ」を受賞)
 - ▶ 北海地区の関係市町村で、約2万haの水稻を生産
→全道の約2割を占める
 - ▶ たまねぎ、はくさいなどは、野菜指定産地の指定を受け道内有数の産地



岩見沢市のたまねぎ

岩見沢市のはくさい

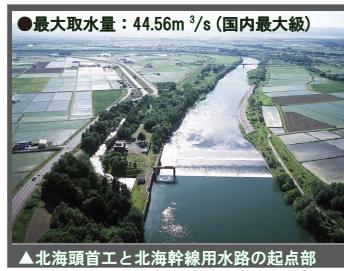


「米-1グランプリ」
でコメ日本一



2 | 地域の現状と課題

- ▶ 国内最大規模の「北海頭首工」・「北海幹線用水路」が、地区内の水稻生産を支えている
 - ▶ これらの既存施設は、築造後40年以上を経過する施設が約9割
 - ▶ 5年以内に、ほぼ全ての施設の残存耐用年数がゼロ
 - ▶ 積雪寒冷地に対応した構造となっておらず「水路倒壊」等のおそれ



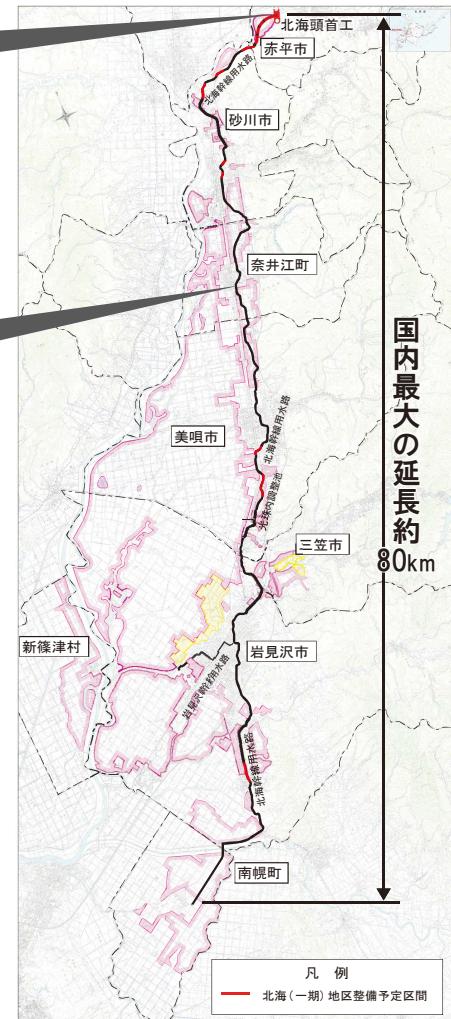
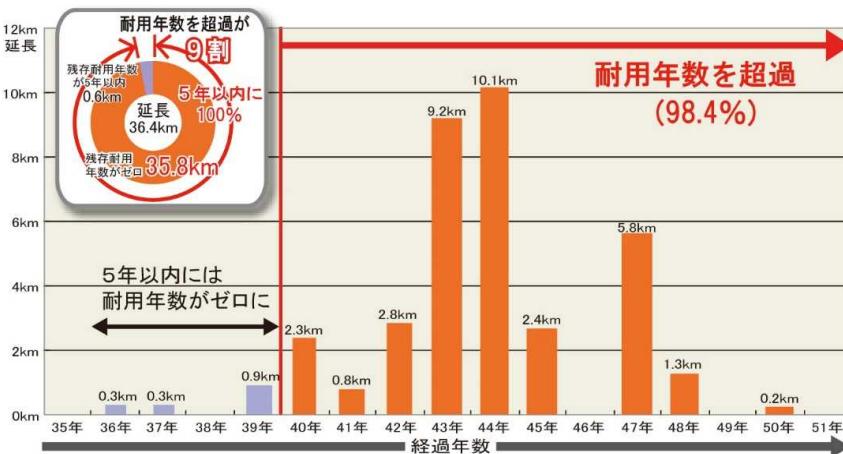
▲北海頭首工と北海幹線用水路の起点部



▲倒挂！大北汽轮机因小障

■北海幹線用水路及び岩見沢幹線用水路

既設使用区間の造成後経過年数(H25時点)



3 | 事業目的

北海地区の農業用用水施設は、老朽化・凍上等によるコンクリートの劣化が進行している。

また、北海幹線用水路は、長大な水路であるため、効率的な用水管理や施設管理に苦慮している。

このため、本事業では頭首工及び幹線用水路を整備し、農業用水の安定供給、維持管理の軽減、用水管理の効率化を図り、農業経営の安定と地域農業の振興に資するものである。

4 | 事業計画概要

受 益 面 積 : 27,002ha(田26,269ha、畑733ha)

関 係 市 町 村 : 岩見沢市、美唄市、赤平市、三笠市、砂川市、南幌町、奈井江町、新篠津村

受 益 戸 数 : 2,329戸

主 要 工 事 : 頭首工1カ所(部分改修)、用水路2条(L=36.4km)

主 要 作 物 : 水稻、小麦、大豆、たまねぎ、小豆、キャベツ、はくさい、花き

事 業 工 期 : 平成22年度～

5 | 老朽化状況と改修適期

▶ 施設機能診断調査の結果から、「北海頭首工」、「北海幹線用水路」の健全度評価(老朽度)として、IV～Iランクに区分

▶ 緊急度の高いIVランクから、随時、改修する工事工程計画を策定

■施設機能診断調査結果

▼北海頭首工

工種	部位	グレード
土砂吐	堰柱	II : 要観察
	管理橋	II : 要観察
洪水吐	堰柱	II : 要観察
護床	エプロン	II : 要観察
取水口	—	III-2 : 補強
護岸	擁壁	II : 要観測

▼用水路

グレード	北海幹線用水路(km)	岩見沢幹線用水路(km)
IV : 改善	22.2	1.0
III-2 : 補強	10.0	1.2
III-1 : 補修	0.8	1.2
II : 要観察	—	—
I : 対策不要	—	—

※III-2、III-1は、経済比較の結果、最も有利となったIVと同様の改修を行う。



■緊急性・優先度・早期効果発現を踏まえて改修時期を設定



※施設毎の優先度：「北海頭首工」→「北海幹線用水路」→「岩見沢幹線用水路」

※施設内の優先度：「上流部→下流部」、「劣化グレード上位→下位」、「市街地→農地」を評価して順位付け

6 | 用水管理の向上

▶ 長大な用水路で広域につながっているため、水管理や土砂流入対策が必要 ⇒ 降雨時等の水利制御施設や土砂排出のための進入路の整備



担当: 北海道開発局 札幌開発建設部 岩見沢農業事務所 (TEL 0126-22-1760)

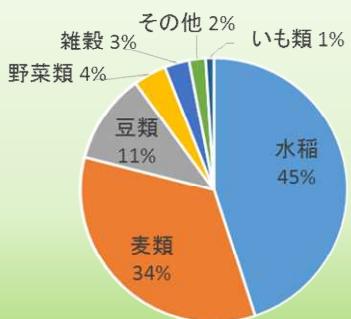
国営施設応急対策事業

お茶の水地区

～安定した排水対策をめざして～

地域の農業

本地区は、北海道中央西部に位置する岩見沢市及び江別市にまたがる2,854haの農業地帯である。地域の営農は、水稻を中心に小麦、大豆のほか、たまねぎ、にんじん等の野菜類等を導入した経営が行われている。



岩見沢市、江別市の作付面積割合(H27)
資料:2015年農林業センサス



地元JAのブランド米
「情熱米」「巴農場のお米」



「まるいわ」ブランドで、
たまねぎ、かぼちゃ、スイートコーン等を販売

地区の現状と課題

本地区の幹線排水路では、鋼矢護岸が倒壊・傾倒する不測の事態が発生している。さらに排水機場においては機械設備や電気設備の動作不良等の性能低下が生じ、施設の維持管理に多大な費用と労力を要している。



排水路の倒壊事故



排水路の傾倒(倒壊寸前)



機械設備の老朽化
(自家発電設備)



排水機ポンプ軸封部からの漏水
(運転停止の発生)

事業目的

本事業では、施設の機能を保全するための整備を行うことにより、排水機能の維持及び維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものである。また、大規模地震の発生に伴う被害の防止、軽減を図るため、耐震化対策を行う。

事業計画概要

受 益 面 積	:	2, 854 ha
関 係 市 町 村	:	岩見沢市、江別市
主 要 工 事	:	排水路 改修 2条 (L=5. 7 km) 排水機場 改修 (耐震化対策含む) 1箇所 ポンプ設備、ゲート設備、電気設備、樋門補修
主 要 作 物	:	水稻、畑作物（小麦、大豆、小豆）、野菜類（たまねぎ、にんじんほか）

施設の整備

○ 排水路

不測の事態への対策

- 矢板の倒壊、傾倒及び構造的安定性を有していない区間の更新、補修を行い、排水機能を維持する。



○ 排水機場

長寿命化対策

- ポンプ設備の動作不良等の性能低下による排水機能の回復を図る。

整備内容

- ポンプ設備の補修
- ゲート設備の部分更新
- 電気設備の更新、補修
- 樋門の補修

耐震化対策

- 大規模地震の発生に伴う被害の防止、軽減を図る。

整備内容

- せん断補強工
- 基礎杭補強工



国営農地再編整備事業

南長沼地区



現状

本地区は、北海道の石狩平野南東部に位置し、石狩川水系千歳川流域に拓けた水田地帯であり、水稻と転作作物である小麦、大豆を主体とする土地利用型作物を中心に、収益性の高い野菜などを導入した複合経営が展開されている。

また、地域では全町的に営農集団を設置し、共同作業等による生産コストの低減を図りながら農業所得の向上を目指している。

しかしながら、地区のほ場は小区画かつ不整形で排水不良を呈しており、経営耕地も分散していることから、共同作業による機械化作業に支障を来している。



小区画ほ場



排水不良ほ場

事業目的

本事業は、既耕地を再編整備する区画整理と地目変換による農地造成を一体的に施工し、生産性の高い基盤の形成と土地利用の整序化を通じ、農業の振興を基幹とした本地域の活性化に資することを目的としている。

本地区では、地域農業の維持・発展に向け、本事業を契機として、効率的かつ安定的な営農集団体制を確立し、土地利用型農業の効率化と集約型農業の拡大による地域農業の担い手となる農業者の経営安定・向上を目指す。



ほ場の大区画化に伴い大型機械による共同作業体系を確立

事業概要

- ◇関係市町村：夕張郡長沼町
- ◇受益面積：1,550 ha
- ◇受益戸数：160 戸
- ◇主要工事：区画整理 1,545 ha
開 畑 5 ha
幹線用水路 3条 7.7 km
- ◇主要作物：水稻、小麦、大豆、野菜類



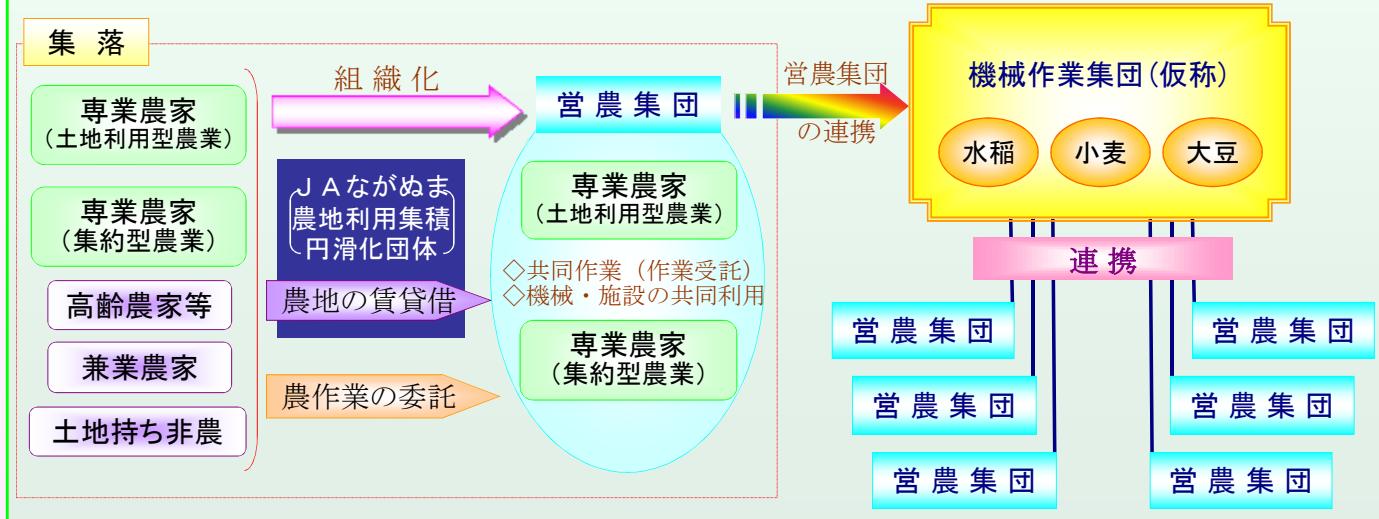
国営農地再編整備事業「南長沼地区」事業構想

現在

国営農地再編整備事業による整備

将来

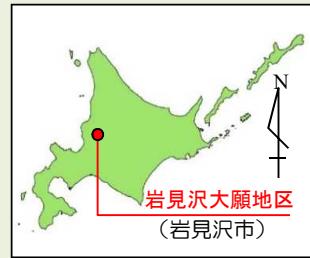
- ◎ 営農集団体制の確立による地域農業の維持・発展
- ◎ 大型高性能農作業機械の更なる効率的な利用体制の整備



国営緊急農地再編整備事業

いわみざわおおねがい 岩見沢大願地区

～スマート農業が拓く地域の未来～



地区の概要

本地区の営農は、水稻、小麦、大豆のほかたまねぎ、はくさい等の野菜類を組み合わせた農業経営が行われており、ほ場作業の効率化等による作物生産コストの低減、たまねぎ等の高収益作物の生産拡大等による産地収益力向上を推進することとしている。

位置:北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯

関係市町村:岩見沢市

受益面積:1,100ha

主要作物:水稻、小麦、大豆、たまねぎ、はくさい等

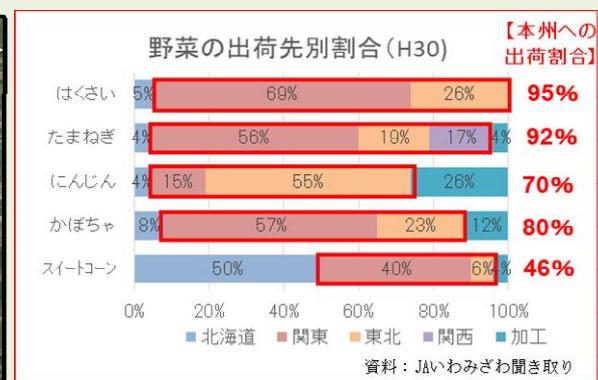
地域農業の特徴

地域独自の栽培履歴や生産工程管理により、品質向上と安心・安全を確保した農産物生産。野菜は関東を中心に全国で消費されるとともに、米は販路拡大に向けた輸出に取り組む。

地域ではICT技術活用による超省力化・低コスト化を目指し、農業者が研究会を設立するとともに、スマート農機導入を進めるほか、大学等と連携した無人ロボットトラクタ等の先進技術の実証にも取り組む。

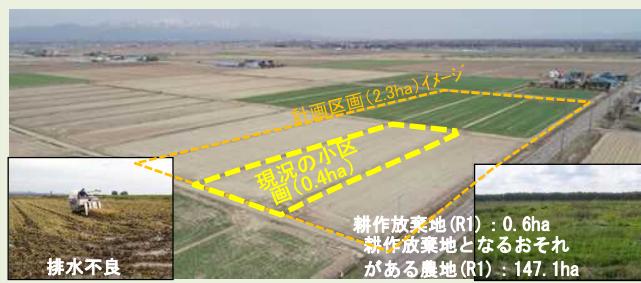
小区画・排水不良かつ分散するほ場では作業効率が低く、スマート農機の効率的運用が困難なため、農業を核とした地域発展の妨げ。限られた労働力の中、これらほ場の承継は困難なため耕作放棄地の増加が懸念。

今後も経営規模拡大が想定されるが、現状のままでは労働力を多く要する野菜類の生産維持も困難。

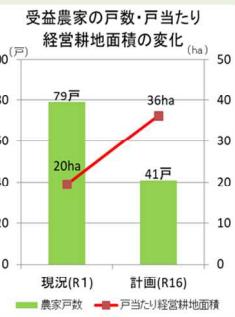


岩見沢大願地区の整備構想

地区の現状と課題



今後、耕作放棄地の増加が懸念



営農の特色

ICTを活用したスマート農業の推進(農業者)

- トラクタに装着する「GPSガイダンス」「自動操舵システム」を担い手農家全戸で導入。トラクタによる圃場作業すべてが効率化
- 自動操舵田植機・GPSレベラー・農業用ドローンなどのスマート農業機器も積極的に導入推進
- これらスマート農業の推進で熟練を要さないオペレータ作業を実現。疲労軽減を図りつつ農作業の効率化・省力化と経費を節減

→ 削減される労働力で野菜生産拡大



JACコントラクターの設立

- たまねぎ収穫作業を請け負う、JAコントラクター設立。農業者の圃場労働力、機械保有コスト削減を図りつつ、需要の高いたまねぎの生産拡大を目指す。

→ 削減される労働力でたまねぎ生産拡大



農作業請負体制の確立(農業者)

- 農作業の請負体制を整備(地区内2組織展開)。大区画ほ場に対応した大型作業機械・自動走行農機を活用した請負体制構築により、各農家のほ場作業時間・機械保有コストを削減

→ 削減される労働力で野菜生産拡大

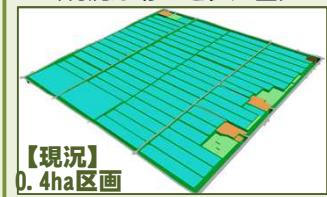
作業	作物	現況		計画	
		機械名	規格	機械名	規格
収穫	水稻	自脱型コンバイン	1.7m	汎用コンバイン	3.6m
	小麦	コンバイン	2.1m		
	大豆				
施肥	小麦	プロードキャスター	800t/h	可変施肥プロードキャスター	1,500t/h
均平化	水稻	レーザーレベラー	—	GPSレベラー	4.1m

国営緊急農地再編整備事業の実施

- ほ場の大区画化(現況0.4ha→計画2.3ha)
- 排水不良の解消
- 担い手農家への農地集積
- 水管理の合理化

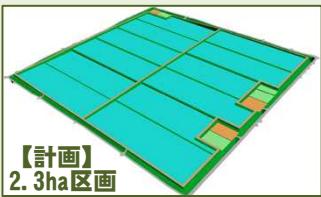
ほ場の大区画化等と地域の中心となる経営体への農地集積や水田の汎用化を通じて食料の安定供給を担う意欲ある農業者が経営発展に取り組める環境を整備する。

<現況ほ場のモデル図>



【現況】0.4ha区画

<整備後のイメージ図>



【計画】2.3ha区画

収益性の高い野菜生産の拡大 ～農家所得・地域生産額の増大～

☆本事業の実施と併せて推進する地域取組を通じて生み出される労働力を活用し、収益性の高い「野菜生産の拡大」を実現

- 消費者へ「安心・安全」な国産(岩見沢産)農産物を安定的・持続的に提供
- 生産コスト低減による経営体质強化
- 農家所得や地域農業生産額の増大
- 農業振興を核とした地域の持続的発展



- 地域の農産物を使った商品開発を進め、付加価値形成を図りながら収益性の向上や販路拡大に努め、農業所得の向上を図る



岩見沢産小麦を使ったラーメン



岩見沢産たまねぎ等を使ったスープ



JAいわみざわ「いわみちゃん」小粒納豆デビュー

J.A.いわみざわ産大豆「スマル」を原料に使用した小粒納豆が新発売されました。

茹で時間が短く、柔らかく、食べやすい納豆になりました。

3パック入り1個98円(税抜)で、A-CODE店舗で販売中!!

(国営総合農地防災事業)

雨竜川下流地区



～農作物の安定した生産のために～

【地域の概要】

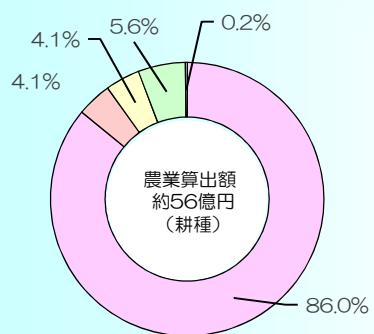
本地区は、北海道雨竜郡妹背牛町及び秩父別町に位置する農業地帯であり、水稻を主体に水田の畑利用による畑作物、野菜類及び花きを組み合わせた営農が展開されています。

地域農業は、水稻の算出額割合が86%と高く、北海道で生産される米の約4%を占めています。生産された米は各町が所有する低温貯留乾燥調整施設で保管され、地域ブランド米（妹背牛町「北彩香」、秩父別町「いなほの鐘」）として、道内外に販売されています。

また、農商工連携により「ちっぺつ緑のナポリタン」を販売し、地域の発展に寄与しています。

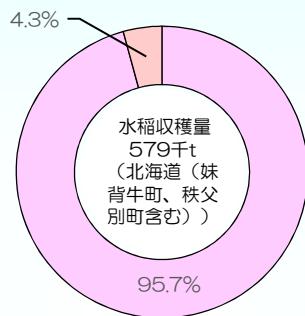
《地域の農業の状況》

《2町の農業産出額割合》



□米 □麦類・雑穀・豆類 □野菜 □花き □その他

《北海道における2町の水稻収穫量割合》



□北海道（妹背牛町・秩父別町除く）
□妹背牛町+秩父別町

出典：平成27年市町村別農業算出額（推計）

出典：平成28年作況調査

「特Aランク」のブランド米



＜地域ブランド米（北彩香、いなほの鐘）＞

《農商工連携による地域の発展》



＜ちっぺつ緑のナポリタン＞

特産品であるブロッコリー等を活かした「ご当地グルメ」や「加工食品」を開発。農商工連携により、原材料の生産、加工、飲食店での提供までを地域で完結させることにより、地域農業の収益力の向上を図っている。

【地区の課題】

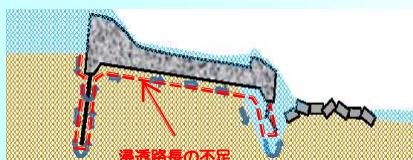
本地区の基幹的農業水利施設であるハ丁目頭首工は、洪水等の自然的状況の変化に起因する河床洗掘の進行により、浸透路長が不足し、施設の機能が低下していることから、頭首工の転倒によって農作物、農地等への災害のおそれが広域的に生じています。

■河床洗掘による頭首工の安全性低下

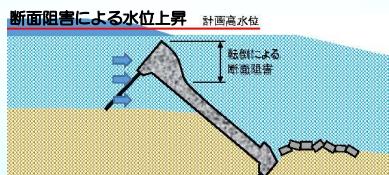
年度	ハ丁目頭首工 計画高水流量	ハ丁目頭首工造成時
昭和40年	2,200m ³ /s	
平成19年	2,500m ³ /s	計画高水流量の変更
頭首工の安全性が不足		



■ハ丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ



- ・河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足。
- ・浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念。



- ・固定堰の転倒にともない、用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な災害が発生するおそれ



【事業の効果】

ハ丁目頭首工等の改修を行い、頭首工の施設機能を回復することにより、農作物、農地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図ります。



頭首工等の改修

【改修後イメージ】



農業生産の維持



【地区の概要】

- ◎関係市町村：雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別町
- ◎受益面積：829ha
- ◎受益戸数：58戸
- ◎主要工事計画：頭首工（改修）1力所、揚水機（改修）1力所、導水路（改修）1条 L=2.5km
- ◎工期：H29～
- ◎主要作物：水稻、小麦、大豆、ブロッコリー、花き(スターチス)